

はばたき

2014. No. 77

みどり園受託運営元年



○ 東葛中部地区総合開発事務組合立みどり園 …… P 2

○ 私達が目指すもの …………… P 6



多目的ホール



みどり園

正面

平成26年4月1日をもちまして、みどり園の運営がこれまでの「東葛中部地区総合開発事務組合」に代わって、社会福祉法人大久保学園の指定管理による運営に引き継がれることとなりました。「みどり園改築等PFI事業」の一環であります。もう一つの主幹事業であります「施設整備事業」は今年6月4日に予定されている竣工引き渡しに向けて急ピッチで進捗しています。平成21年9月の説明会(実施方針の公表)に始まるこの一大プロジェクトは様々な段階を経て、施設整備については間もなく完了し、平成26年6月5日より「全面供用」となります。この間、実は大勢の方々の叡智と技術を結集し、様々なご配慮を頂いたことに感謝申し上げます。また、これらの建物、設備、植



施設長 藤森 元

いよいよスタートです

東葛中部地区 総合開発事務組合立みどり園

栽等の維持管理につきましては引き続き関係各位の適切なご指導をいただきながら、最良の性能の維持に努めます。

そして本題の運営についてであります。冒頭申し上げましたとおり、本年4月1日より当初計画どおりみどり園は大久保学園による運営がスタートしております。障害者支援施設みどり園(各ユニット20名、4ユニット合計80名)と、グループホームみどりの家、壺番館・式番館(各10名、合計20名)にて100名の利用者の方々への支援にあたっているところであります。前みどり園職員の方々のご配慮もあり、大きな混乱もなくまずまず平穏な滑り出しができたと思っております。しかしながら、今回の事業の引継にあたって、利用者さんや保護者の皆様の心情に思いを巡らすとき、その責任の重大さを痛感しているものであります。1日も早く利用者さんや保護者の皆様より信頼していただけるよう「利用者さん中心、凡事徹底」を合言葉に日々努力を続けます。

義が取り沙汰されてきました。そして、全国あるいは県内施設において深刻な権利侵害や不祥事が散見される中、私たちはこれらの厳しい逆風の中において、入所施設の有効性や必要性について確信を深めてきました。そしてその前提となるのが、「徹底した権利擁護の取り組みがなされなければならぬ」ということをよくよく肝に銘じているつもりであります。

私たちは、みどり園のこれまでの歴史や実績に敬意を払い、利用者さんひとり一人が歩んできた人生と、これからのそれぞれの暮らし向きを大事にしたいと思っております。そして、その生活が安心して落ち着いて楽しく、そして生きがいのあるものになるよう努力を惜しまないことをお約束します。さまざまな背景を持つ方々が、縁があつてみどり園で出会いました。この出会いが利用者さんや保護者の皆さんそして私たち職員にとっても幸いなものになることを願つてやみません。

末筆になりましたが、これまでのみどり園関係者の方々のご指導、ご協力に心より感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。



平成26年度を迎えて

副施設長 川上 啓治



この度、みどり園から社会福祉法人大久保学園にお世話になることになりました。どうぞよろしくお願ひ致します。

この4月から大久保学園によるみどり園の維持管理運営が始まりました。その始まりとなったのが、みどり園改築等PFI事業です。

みどり園改築等PFI事業は、東葛中部地区総合開発事務組合が昭和57年に開園した知的障害者の支援施設の施設老朽化や、利用者の重度重複化、高齢化、長期滞留化などの問題と運営面では公立施設のため構成市からの負担金依存度が高く、収支の健全化が課題とされ、経費節減と経営の効率化が求められる一方、障害者の地域生活移行の推進など大きく変動する障害保健福祉施策への対応に迫られ、「みどり園のあり方」について見直しが行われた結果によるものです。

障害者支援施設の役割は、入所利用者に対するサービス・支援だけでなく、在宅障害者の支援の大きな役割を持っています。

地域からの社会福祉法人大久保学園への注目と期待は大きいものがあると感じています。

みどり園での32年間とみどり園改築等PFI事業、平成24年4月からの運営引継の経験のみどり園の利用者・保護者の皆様、そして地域の障害者のために生かせればと思っています。

私のみどり園紹介

施設長補佐 村田 康之



浅学非才ではありますが、この躍動感ある法人の一員に加えていただいたことに感謝すると共に緊張感を覚えております。

この執筆にあたり、あれこれ考えましたが、みどり園の園歌を紹介いたします。

みどり園園歌

作詞 井ノ口法男 作曲 松本昌三

- 1 春はみどりも うすいけど
夏にははぐなる 強くなる
仕事にはげみ 出る汗に
あしたの力 わいてくる
力のいずみ みどり園
明るいみんなの みどり園
- 2 夏は稲穂も 軽いけど
秋には実って 重くなる
心をつなぎ 手をつなぎ
あしたの希望 話し合う
希望の泉 みどり園
明るいみんなの みどり園
- 3 冬は木の芽も 小さいけど
春には大きく 伸びてくる
あしたの光 呼んでくる
光の泉 みどり園
明るいみんなの みどり園

この園歌は、昭和57年みどり園の開園に際し事務組合構成市(柏市・流山市・我孫子市・沼南町・後に柏市と合併)の広報誌で一般公募し、多数の応募の中から選ばれたものです。

この歌の詩を読み直してみますと。32年前のみどり園開園の感動と緊張感がよみがえると共に、新装なったみどり園の門出においても同様の感を覚えております。

新たな気持ち

施設長補佐 加藤 安利



社会福祉法人大久保学園による受託運営に伴い、みどり園に勤務することになりました。

長年働いていた大久保学園とふなばし工房での職務をしながら多くの貴重な体験をさせていただきました。その経験を基に、新しくスタートするみどり園では主に日中活動(作業活動)の支援をさせていただきます。

活動内容は園芸班・受注生産1班・受注生産2班・陶芸班・造形班・機能訓練班の6の班に分かれて取り組んでいきます。全体の支援を開始する時期は、建物の建築終了後、6月の下旬を予定としています。まずは、利用者さんの生活環境を大きく変えた支援ではなく、日中生活の一部として一つ一つ取り組んでいきたいと考えています。また利用者さんが興味や関心を持ちながら楽しく、明るく、元気ある活動を目標として取り組んでいきたいと思っています。

今後とも皆様のご指導とご支援のほど宜しくお願いします。



私たちも頑張ります！

今年度からの受託運営のための準備として、平成25年4月より、法人職員18名がみどり園での業務にあたっています。利用者さんの生活に触れ、保護者さんの想いに触れる。そして、みどり園の歴史に思いを馳せる。先輩職員から伺う笑いあり涙ありの今昔物語は利用者と共に過ごした日々を想像させます。

まだ経験は足りませんが、明るく楽しくそして利用者さんの想いに触れたいと思っています。どうぞ宜しくご指導ください。

澤田 和希



昨年4月より、みどり園で引き継ぎを行いました。利用者さんも職員の方も色々な方がいて、大久保学園との違いや、これまでの利用者さんの生活や、職員の方の思いなどを沢山知ることができ日々学ぶことの多い1年となりました。これからもその思いや利用者さんの生活を引き継ぎ、更により良いみどり園にしていけるように頑張りたいです。また新しい建物で働けることはとても気持ちが良く、綺麗に維持していけるように努めたいと思います。

松田 あかり



みどり園の先輩職員方は経験豊富な方が多く、開設時より利用者さんを支えてきた方もいらっしゃいました。右も左も分らない私達に大変親切に、そして丁寧に教えて下さいました。長年の経験から培った知識と技術、そして利用者さんに対する想いは並々ならぬものがありました。先輩方の経験と想いを受け継ぎつつ、今年度より始める日中活動で、生活の場と活動の場を分け、生活の質の向上を目指し頑張っていきたいと思います。

山崎 玲弥



みどり園で勤務し1年が経ちました。今年度からは先輩として後輩への指導もしていくこととなります。多くの諸先輩方から教わったことや、1年間利用者さんと関わり学んだことなどをより多く伝えていけるように日々業務を行いたいと思います。また、昨年9月から新築の居住棟での生活へ移行し、大変綺麗な環境で働かせて頂いています。この美しい現状を維持し続けられるよう掃除などにも尽力して行きたいと思います。

小熊 亜彩子



昨年度からみどり園で働かせて頂いています。昨年は多くの先輩職員の方からたくさんのアドバイスや利用者さんのことを教えていただきました。様々な場面での関わりの中、日々学ぶことがありました。利用者さんの気持ちを考える時間が増え、笑顔をもっと見たい、笑って安心して過ごしてもらいたいと思うようになりました。新年度になり、更に気を引き締めつつ利用者さんの笑い声の絶えないみどり園にしていきたいと思います。





開設準備に携わって

大久保学園 施設長補佐

吉野 員史

いつの間にか、現場事務所が無くなり、30回を重ねた総会定例会部の終了が告げられる時が来たのです。私が経験した5年間の開設準備業務は、ごくごく自然な企業論理の中では、本格的に新たなみどり園のスタートを意味することであり、そこには個人的な情緒が入る隙間はありません。ただ、少しでも思い話しをする機会を頂きましたのでここで披露したいと思います。

平成21年の春から始まったプロジェクトは月に数回のペースで施工業者、設計者、備品業者との打ち合わせを重ね、改築運営を中心とした提案に向けてチームが確実に動き出しました。翌年5月に事務組合より要求水準書が告示されるとそのスピードは加速し、提案内容の充実に向けて打合せが夜遅くまで続くこともあり、この年の夏に



は、PFI事業運営を成功させている新潟県の法人も見学させて頂き、新潟県滞在3時間という強行スケジュールも今となつては思い出です。

平成22年9月に法人の提案が認められると事業契約の締結の準備が始まります。ここでチームのメンバーが一部入れ替わります。設計草案の立案者が減り、契約部門のスペシャリストが加わるのです。新メンバーでの初顔合わせは平成22年11月19日柏市役所。会合の後、駅前のそごう7階のカフェで決起集会が行われ、この後、市役所での会合は20回以上に及んだのではないのでしょうか。緊迫した会合に向かう途中で立ち寄るサイゼリアでの作戦会議からは、色々なことを学ばせて頂いたと思ってきました。

平成23年10月になるといよいよ既存の建物の解体が始まりました。まずは、ビニールハウスと私たちも幾度となくお世話になった体育館です。この間も改築に向けた設計作業は続けられ、連日打合せを重ねています。私は藤森施設長に同行し職員への説明会や保護者会での説明、運営への草案作りの作業に努めていました。炎天下の中、メジャーを持つ敷地周りを歩いたこともありまし



た。利用者さんの個性もわからない中での備品の購入設定には少々手こずり、現在の実態像に合わないものもあるかも知れませんが、勘弁です。でも、玄関ホールのテーブルセットだけは品川のショールームで一目惚れした一品の自作作品です。敷地内に木が何本以上なければいけないという決まりにも驚き、景観委員会という組織もあって利根川の土手から建築後の風景についてアドバイスを受けました。経験すること全てが初めてだったなと思います。

平成24年8月には、第一工区(管理棟)の完成です。この一ヶ月は本当に凄まじかった。職人が数百人は居たのでしょうか。おそらくヘルメットを被つての現場工事は体感40度を超えていたはず。黒部の太陽の再現を見ているようで格好良い。私は職人さんと話をすることが好きでよく煙草を吸いながら話を聞きました。震災復興で本当に人手が無いこと。職人の賃金が跳ね上がっていること。原材料の高騰で厳しいこと。若い職人は辛抱がないこと。等々。ある意味、私はこの工区の完成が一番印象に残っているような気がします。ここからは、日々細かな部分の物

つくりの世界になってきました。スイッチの位置、鍵のシステム、洗濯機の位置、蛍光灯の種類、ソファの色、テレビのサイズ、屋根の形状、アスファルトの種類、素人が図面でその判断をしていくことは至難の業です。現在利用されている方から「何でここにスイッチ?」と言った類の声は天に向かつて伝えて下さいね。平成25年になると前述にある通り、法人の職員が現地に入ったので、私の役割と楽しさと少しの苦労は徐々に後輩職員に引き継がれていくことになり、無事今日を迎えることが出来ました。

この5年間、様々な業種の人がチームに携わって来ました。次々と相手先が変わる企業戦士には当たり前のことだと思えますが、私には感慨深い思いがあります。多分、一生、話しをすることのない分野の人たちと仕事をする機会を得て本当に幸せだったなといつまでも心に残ると思います。

最後に大久保学園の業務との兼務を支えて頂いた仲間。わからないことがあっても一部始終見ておきながら一言一語頂いた藤森施設長。そして、この大事業の受託を決定された法人に感謝致します。





大久保学園

 係長 棚原 聡
なぎ はら さとし

私は平成10年に大久保学園に入り、地域生活支援センターの相談支援専門員としての仕事を長く担当していました。数年ぶりの施設支援の取り組みは以前と比べて、大きな変化を迎えています。

まず、南館の耐震化と大規模修繕です。平成5年に竣工した南館は20年を迎え、リニューアルする事になりました。昨年度から工事が着工し、すでに第1工区の工事が終わろうとしています。全4工区を秋ごろまで掛けて行うという長丁場で、その都度利用者の方への影響が最小限になる様に、工事業者の方と綿密に打ち合わせをし、職員も日々知恵を絞っています。秋には完全リニューアルオープンです。

もう一つ大きな変化がありました。こちらは40年以上続いてきた業務システムの見直しです。昨年度までは、全ての職員が担当利用を持ち、作業班にも所属するという形でした。今年からは、日中活動を担当する職員と生活面をみる職員を分けています。日中活動を担当する職員は、もちろん特殊

勤務に入ったりもしますし、洗濯物の片付けを手伝ったりもしますが、利用者の方の担当は持ちません。あえて言うなら、自分の作業班に所属する利用者が自分の担当であり、その方たちの日中活動の充実を第一に考えるという事です。

一方、生活係の職員は、各館に配属され、利用者の方の生活支援にあたります。日中は作業班には入らず、居室のこと、健康管理等の業務にはいります。ここ数年、高齢化により健康面の把握の重要性が上がり、個別の支援が必要になるケースも増えてきました。そのようなニーズにこたえつつ、従来大久保学園が大切にしてきた「はたらく」ということをどこまで追求できるのか、今年の体制の変化はまさにそのための物でもあります。

このような変化の中で、職員は一丸となり、新しい物を生み出すと日々奮闘しています。今年度も大久保学園を宜しくお願い致します。

私達が目指すもの



ふなばし工房

 係長 竹内 憲一
たけuchi けんいち

ふなばし工房・みらい工芸館は旧法通所授産施設から開始をし、障害者自立支援法に基づき、多機能型事業所へ変革を遂げました。現在利用者86名。多機能型事業所として活動していますが、共通して言えることは「働く」ということです。地域の施設などから多くの製品の注文を頂き、衛生面には特に配慮し、朝早くから粉と油にまみれながら注文数を時間までにきちんと作る食品加工班、法人の地域の看板として朝早くから数十種類のパンを作り、お客様満足度をとことん追求するブルーランジェリーふなばし工房、簡単なように見えてもやってみると難しく、様々な工程があり、且つ持続力を必要とする製袋班、暑くても寒くても雨でも雪でも種を蒔き続け、その作業は絶えることのない農園芸班、プラスチックの樹脂キャップの目に見えるか見えないかの地道な検品やコンタクトレンズ保存液の梱包作業を行うみらい工芸館、暑いビニールハウスでの収穫

から数種類のジャムを安定した味で作っているジャム加工班、それぞれ職種は違えど、一人一人の役割を全うし一生懸命働く集団。私はこんな仲間が大好きです。

今後何をを目指すかは、もちろん「一番」でありたい。利用者の満足度、安全、安心、保護者の信頼、取組み内容、生産性、施設環境、挙げればきりがありませんが、すべてにおいて一番でありたいと思います。正直日々忙しく「これ以上無理だよ」と思うこともありませんが、下を見るのは簡単。必ず朽ちていきます。100%を目指せば80%程度にたどり着き、120%を目指せば100%になるでしょう。どのような山を目指すかは歩いてみないとわかりませんが、今年もふなばし工房、みらい工芸館、全利用者、職員で頂点を目指していきたいと思います。今年度、新任職員5名が新たに加わった事は、開所以来の多さです。新たな風を追い風とし、更なる飛躍を目指していきます。



地域生活支援センター

相談専門員 小澤 秀仁

今年度から大久保学園地域生活支援センターに配属になりました。

よろしくお願い申し上げます。当センターは、①相談支援事業、②短期入所・日中一時支援事業、③障害者就業・生活支援センター事業、④共同生活援助事業という主たる4つの事業サービスを総合的に提供支援していく所です。まさに地域支援を総合的に行う部署であり、それだけに大変な責任を感じながら日々右往左往して取り組んでおります。

私自身は、日々現場の中で利用者さん達と接して何かを作り上げていくことに至上の喜びを感じる人間なので、もともと現場で皆さんと楽しく接したいという思いが強くなります。しかし我々が取り組んでいる計画相談や就労支援、短期入所の受け入れ等々も、彼らの生活を支えていくうえでもなくてはならないものであります。側面的な支えであっても「彼らのために自分ができることは何でもやろう」「今まで自分という人間を育んでくれた利用者さんと大久保学園のためなら」という思いで気持ちを新たにしているところであります。

というのも、私は以前大久保学園に13年勤めていました。入所に5年、ふなばし工房に8年。その後6年ほどは高齢者の分野で仕事をしていたが、縁あって昨年からまた大久保学園で仕事をさせてもらっています。「小澤さん、久しぶり」と声を掛けてくれる利用者さん、何人かいらつしやいます。が、以前に比べると職員の仕事の内容や利用者さんの様子も大分変わっているように感じます。ただ、大久保学園の持つ雰囲気、利用者さんと親御さんに真摯に向かい合う姿勢は変わっていませんでした。高齢者の分野で学んだこともフルに活用しながら、地域支援という仕事に取り組んでいきたいと思っています。

数年ぶりに戻った大久保学園で、また利用者の皆様の生活を支えるということ仕事をすることに深い喜びを感じながら、今後がんばろうと思っています。日々弱音を吐かずががんばっているセンターの職員ともども今年もよろしくお願い致します。

私達が目指すもの



光風みどり園

係長 入澤 哲夫

今年度の光風みどり園の目指すところ。まずは法人内で一番の施設にしていきたいと個人的には決意をしています。具体的には利用者さんへの支援の質が一番でありたい。またスタッフがいっぱい笑顔で、みどり園で働くことが楽しい。そんな施設を目指していきたいです。支援の質については昨年度スタッフアンケートをとった際に「あなたの支援の拘りは？」という設問に対し、それぞれが通常業務以外の細やかな拘りをあげてくれました。これは個人の好プレーなのですが、全体の業務をスムーズに回す隠れたプレーなのです。私はこの好プレーを皆で共有し、好プレーがベーシックなレベルになるようにしていきたいと思っています。

また今期から係長としてより責任を持つことで、意識している一つにスタッフの皆がいっきいきとして利用者に向き合える。そんな環境をどのように築いていくか。そこに焦点を当てていきたいとも感じています。利用者の最大の環境はハード面の整備に加えて、すぐそばで一緒に活動するスタッフ達と感じているからです。

こんな話があります。泣いている子供の対応をするお父さん。悪いお父さんは、泣いている子供を怒り出す。普通のお父さんは、なぜ泣いているのか理由を聞く。賢いお父さんは……。お母さんに優しくする。一見的外れの気もしますが、日頃の子育てにストレスを抱えているお母さんに優しくすることで母親の気持ちが落ち着き、結果的に子供への接し方が優しくなっていく。施設であっても利用者さんがイライラしている場面をよく見かけます。直接的に原因が利用者さん自身にあると考える前に、実はそんな時こそ一歩手前の我々余裕のないスタッフが原因では……。と考えてみたい。

利用者さんもスタッフも笑顔でいる時間をいかに増やしていくか。それがこの仕事の目指すところと感じています。

寄贈品

日本財団



車 (ステップワゴン) (大久保学園)

日本財団

車 (ステップワゴン) 大久保学園

千葉県共同募金会

吸引器	大久保学園
吸引器	原宿ホーム
空気清浄機	原宿ホーム
ブルーレイプレイヤー	原宿ホーム
洗濯機	原宿ホーム
掃除機	原宿ホーム
ミキサー	みらい工芸館

千葉県共同募金会



吸引器 (原宿ホーム)



ブルーレイプレイヤー (原宿ホーム)



掃除機 (原宿ホーム)



吸引器 (大久保学園)



空気清浄機 (原宿ホーム)



洗濯機 (原宿ホーム)



ミキサー (みらい工芸館)

ありがとうございます。
大切にに使わせていただきます。

憶 記 る 辿

気が付けば

大久保学園 宮本 福太郎



私が真剣に自分の進路と向き合ったのは大学四年生の時でした。入学後も、ただ時間が過ぎていくばかりでこれと言ってやりたい事も見付からないまま大学三年生を迎えていました。

大学三年生になると施設実習がある為、自分で実習先を見つけないければなりませんでした。ちょうど住んでいる家の近くに授産施設があったので実習を始める前にボランティアをしてみようと思い、時間があれば訪れていました。自分が行った授産施設は身体障害者の方を対象とした事業所でしたが、自主通勤出来る方ばかりで介護を必要としている人は数人しかいませんでした。そんな感じなので介護というよりは皆で楽しく喋って作業をしていた記憶しかありません。

夏休みを利用して一カ月の実習もその施設で行わせて頂きました。それでも福祉の仕事をする確固たるものが得られず、悩みながら大学四年生を迎えていました。何か資格をと思いホームヘルパー二級の講習を受けました。その実習で介護施設の仕事に少し違和感を感じた事を覚えています。そのことがきっかけで自分の進路と真剣に向き合い障害者の分野で力を発揮したいと決めました。就職活動で大久保学園の門を叩き、合格を頂いたので迷わず大久保学園に決めました。そんな就職決定から今年度で10年目を迎えます。気が付けば同期は別の道を歩んだり、出産があったりで随分と減りました。

節目の10年目、現状の課題に耐える為に歯を食いしばるのではなく、チャレンジして歯を食いしばれるようにして行きたいです。

豊かな個性に魅せられて

みどり園 松田 あかり



私が知的障害者福祉の道に進むことになったきっかけは、学生時代に経験した実習です。

私は学生時代、美容福祉という分野の勉強をしていました。美容福祉とは、福祉の現場において美容をツールとして利用者さんの生活の質を高めることを目的とした学問です。その為、福祉の勉強と同時に美容師になる為の技術を学ぶという少し特殊な学生時代を過ごしていました。

ある時、実習の一環としてある知的障害者の就労施設でメイク講座を行う機会がありました。その時に出会った利用者の方々は、私達の訪問をとりきりの笑顔で喜んで下さいました。感情をストレートに表現する利用者さんを見て私は心を動かされました。利用者の皆さんが思い思いに自分の気持ちを伝えようとする姿に、強烈なインパクトを感じました。その出来事をきっかけに、知的障害者の方々の事をもっと知りたいと強く思うようになりました。

大久保学園では、生活介護班（現在の創作班）に配属となりました。大久保学園の作業班の中でも比較的障害が重い方が多い班ではありますが、皆さんは苦勞を感じさせない程魅力的な利用者さんばかりでした。個性豊かで自然体な利用者の方々と共に、ゆったりとした時間の中で過ごした生活介護班での日々は、私の心を潤してくれました。

平成26年度より我孫子市にあるみどり園への配属となりました。こちらの施設にも多くの個性豊かな利用者の方々が生活しています。支援を始めてから日が浅い為、まだ関係性を構築している段階ですが、これから更に多くの利用者さんの魅力を発見していきたいと思っています。

それぞれの施設だより

大久保学園

いよいよ2

月から大久保学園南館の大規模修繕が始まりました。平成5年に竣工した頃「新館」という名前と呼ばれていた頃が懐かしく思い出されますが、20年が経過し全面的に改修をします。ただ、工事は利用者の方が住んだまま行いますので、居室、食堂、お風呂と工事が進むたびに、生活への影響が出ます。工事業者と定例会議を行いながら、安全にしかも効率的に工事が進められる様に綿密に話し合いをしています。



全4工区を秋頃までかけて、順番に工事して行きます。そろそろ第1工区が終わろうとしており、一部の居室が新しくなります。いつもと違うところがあり、色々混乱したり、我慢もしなくてははいけません、新しくなり、使い勝手が良くなった南館を利用者も職員も心待ちにしています。きれいな居室でのんびりと過ごし、新しくなった食堂でご飯を食べ、リフォームされたお風呂に入る。「新」南館を想像しながら、

(池田)

ふなばし工房

冬から春へ季節の変わり目を迎えています。

今年は、稀にみる大雪が降ったり、巷ではインフルエンザが流行ったりと利用者さん、支援員共に体調管理が大変でした。そんな中、ブーランジェリーは皆が風邪をひくことも無く元気に活動しています。これからどんどん暖かくなり、春はパンが最も美味しく食べられる季節です。今、続々と新製品を開発しています。支援員だけでなく利用者さんとも話し合いながら、あんなパン、こんなパンとお客様に美味しいと言って頂ける商品を考えています。増税や、原材料費の高騰と厳しくなりますが、そんなもの吹き飛ばす気持ちで利用者さんと共に力を合わせて頑張っていきたいと思っています。(内藤)



光風みどり園

光風みどり園今年度始めの行事として、4月4日に『お花見』と題して園庭で昼食を摂りました。風は少し強かったのですが天気にも恵まれ、ちょうど1本ある満開の桜を遠目で見ながら気持ち良く会食が出来ました。豚汁は、テント内で配膳とおかわりが行われ美味しく頂きました。新任の支援者の紹介も行われ、楽しいひと時を過ごしました。

冬場の大雪の時、光風みどり園裏のハウス3棟の内の1棟が雪で押し潰されるといふ事態がありました。現在、修復の段取りを行っています。そんな事態が起こっても負けないめげない園芸班は、他のハウスを工夫して見事な花を育てています。アンデルセン公園の『花と緑のフェア』にも出店し、見事な花を植えたり販売したりしています。

最近の変化としては、光風みどり園の食堂に大きなテレビが取り付けられた事があげられます。今後、休憩中や余暇として使用する予定です。(清水)



みどり園



平成26年1月26日にみどり園祭が開催されました。その際に『みどり園改築等PFI事業の新施設完成記念』として我孫子市・柏市・流山市の市長をお招きして記念植樹祭が執り行われました。市長の他、保護者会代表鈴木様、利用者代表岩尾さん、当法人から鈴木理事長が参加し、大々的に植樹が執り行われています。今回、植樹を行った樹は、『やまぼうし』です。花言葉は『友情』。長年培われてきた利用者さん、保護者様、職員との友情・絆を今後とも絶やすことなく、質の高い支援を目指して行きたいと強く感じ、この記念すべき日に立ち会えた事を幸せに思いました。(須藤)

地域生活支援センター

大久保学園内に移転した地域生活支援センターに、2度目の春が来ました。昨年度は、試行錯誤しながらも地域の皆様より温かい支援を頂き1年を無事終えることができました。



(矢吹)

さて、昨年度末の3月6日に障害者就業・生活支援センター主催の第2回地域意見交換会を開催しました。意見交換会も延べ8回目の開催となり、船橋市以外の近郊の関係機関にもご参加頂けるまでになりました。今回の意見交換会では、「企業の求める人材」というテーマで行いました。ご参加頂いている事業所の方々より、雇用している企業側の話を聞いてみたいとの要望があり今回のテーマになりました。障害者雇用を進めている企業2社と千葉県障害者職業センターのカウンセラーさんを迎えパネルディスカッション形式にて、各社での取り組みについて、求める人材について等の講話を頂きました。参加頂いた方々は、勉強になりましたと各事業所で今後の支援に活かしていきたいとおっしゃっていました。

新年度も、意見交換会に参加頂いた方々がお土産として各事業所に持ち帰れるような内容の意見交換が図れるよう努めていきたいと思えます!!

新年度も、意見交換会に参加頂いた方々がお土産として各事業所に持ち帰れるような内容の意見交換が図れるよう努めていきたいと思えます!!

新年度も、意見交換会に参加頂いた方々がお土産として各事業所に持ち帰れるような内容の意見交換が図れるよう努めていきたいと思えます!!

相談支援事業



平成26年度がスタートし、相談支援事業所は新しいメンバーを迎え、さらに一層地域の方の支援に力を注いでいきたいと考えています。皆さん

もご承知の通り、南館の大規模修繕に伴い、短期入所のご要望に对应できていないのが現状です。空いている部屋を駆使していますが、今少しご理解とご協力をいただき、新しくなった建物をご利用いただく事を楽しみにしていただければと思います。

さて、相談支援事業所では、サービス等利用計画書の作成を急ピッチで進めています。今年度中に障害福祉サービスを利用する全ての人に計画書を作成する事を目指しています。船橋市については、成人の方が約2400名、児童の方約500名が対象になるとお聞きしています。大久保学園に計画作成の依頼をしてくださる方の中には、他の市町村や都道府県の方もいます。市内の事業所の連絡協議会(FASINET)に参加し、協力しながら取り組んでいます。今年度も宜しく願います。(小澤)

グループホーム



暖かくなるのを待つて3月に「鴨川シーワールド」と季節ならではの「いちご狩り」をプランに入れ、夜は房総の温泉ホテルへ宿泊です。一日目の昼食に「和田久」という個人経営のお蕎麦屋さんへ行きました。大きな海老が乗った揚げたての天ぷらなど美味しいご飯を頂き、皆さん満面の笑みを浮かべていました。二日目は、一泊旅行では初めての試みという「いちご狩り」です。皆さんワクワクしながらハウスへ向かいました。ハウスには一口では食べきれない程の大粒のいちごがたくさんあり、みんな黙々と美味しいいちごを堪能していました。今回は少人数での旅行という事でトレイル休憩もスムーズに行う事ができ、「道の駅に寄りたい」というようなリクエストにも応えることができ、とても楽しい旅行にすることが出来ました。(大黒)

通所



現在の通所班は平成25年4月より生産活動中心の日課となり、主に幼児・低学年向けの雑誌の付録誌め作業を行い、進行具合を考慮し、ウォーキング等の活動を実施しています。以前までは終日作業活動というスタンスでは無かったが、年度当初は利用者の方々が日課の内容が変った事で戸惑われてしまうのではないかと心配しましたが、皆さんが作業活動に対して意欲的に取り組んでいただけであり、今では次の仕事が入荷するのはいつ頃なのかと気にされる方もいらっしゃいます。活動場所もリニューアルした体育館に移動し、環境も変わった中での活動となっていますが、通所される利用者の方々が通いたいと思えるような環境を提供できるよう、皆さんと向き合いながら日々努めていきたいと思えます。(内山)

人事往来

新規採用者

今年度は、みどり園の受託運営に伴い、多くの職員が採用されました。78名の新たな仲間です。各事業所での業務がはじまっています。

異動職員

小澤 秀仁	大久保学園
森川 千明	大久保学園
久保田ひろみ	大久保学園
瀬楽 徹	ふなばし工房
山崎 美佳	光風みどり園
加藤 安利	みどり園
福田 浩司	みどり園
田中 邦昌	みどり園
市橋 健一	みどり園
大川 陽介	みどり園

退職者

山田 聡子	大久保学園
加藤 武夫	大久保学園
猿田 麻美	大久保学園
山田 瞳	大久保学園
金子真理恵	ふなばし工房
小川 淳美	光風みどり園
野澤 祐美	光風みどり園

行事予定

4施設全体行事

5/25	千葉県障害者スポーツ大会
7/30~31	定期健康診断
7/19	合同保護者会

大久保学園

8/9	保護者会
8/10~17	夏休み

ふなばし工房

5/28	明治神宮販売 保護者個人面談
8/14~17	夏休み

光風みどり園

5/13	保護者会
5/23	定期健康診断 食事会
7/1	胸部レントゲン撮影
8/13~17	夏休み
8/30	納涼祭

みどり園

5月	保護者会総会
8/10~17	夏休み

風の詩

晴れの日も雨の日も、暑い日も寒い日も、「おはよう」と元気よく毎日してくれるあいさつ。

そんな利用者さんの毎日変わらぬあいさつにいつも元気もらっています。私もそんな利用者さん達に元気をあげられるようにこれからも頑張っていきます。 杉田 智子

料理の味を引き立てるスパイスがあるように、人との出逢いも人生におけるスパイスの一つなのだろう。

「あなたがいて楽しい」些細でも良い、相手の人生にとってそんなスパイスの一つとなれるよう、人の気持ちに寄り添う支援を大切にしていきたいと思うのです。 田中 邦昌

園芸の花が咲くまでの過程、皆さんの努力に後押しされて私も頑張っています。

利用者と職員がお互いに支え合いながら、地道に気長に日々を大切にしたいと思います。 新井 弘輝

寄付金

平成二十六年一月二十一日
〜平成二十六年三月十五日

〔後援会〕

岩下てい子

〔一般〕

鎌ヶ谷市社会福祉協議会
船橋市社会福祉協議会

ありがとうございました



今号の編集を務めさせていただきました。また和久です。新年度に入りました。

今年度より我孫子市にあるみどり園の始動、南館の改築、新しい職員の着任等々暖かい春風と共に新鮮な風が勢いよく吹いてまいりました。今号より施設便りも拡大し、より多くの情報を皆様にお届けしていきます。新鮮な風の勢いに乗って利用者・職員共に躍進してまいりたいと思います。(和久)

はばたき

二〇一四 七七号

発行/平成二十六年五月

発行所/社会福祉法人 大久保学園

TEL 〇四七(四五七)二四六二

FAX 〇四七(四五七)四〇六九

URL <http://www.okubogakuen.or.jp>

Mail shienka@okubogakuen.or.jp

編集/大久保学園 広報委員会
表題書/大久保学園長 中原 強